文化祭　特進クラス、健闘！

Newsletter

３年ぶりに外部からの訪問客を受け入れての開催となった本年度の文化祭。当日まで準備が間に合うのだろうかという懸念もありましたが、終わってみればここ数年で最多の来場者数を数え、生徒にとっても充実した文化祭となったようでした。特進クラスでは２年１組が「教職員賞」、２年２組は「生徒会賞」を受賞しました。

中学校では文化部が出し物をするだけで、運動部の僕は毎年文化祭を見ているだけだった。昨年もコロナの影響で体育館の出し物だけで、このまま高校の文化祭を経験せずに終わるかと思っていたので、普通に文化祭ができて本当によかった。（2 年 2 組　曽根 陽太）

人生で初めての文化祭で、どのようなものにするといいかのイメージもつかないまま当日ギリギリまで話し合いました。話し合いのなかで多少衝突することもあったが、最後まで全員が頑張って取り組めたので、達成感を得て終えることができたと思う。（1年 1組 田中 恒太）

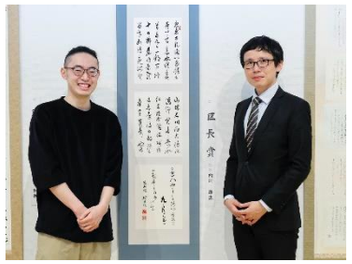
ちゃんとした文化祭をやるのは今回が初めてだった。僕が担当したのはクイズと装飾で、特に装飾が大変で、思うようには進まなかった。2 つの教室をつなぐ土管を作るのはいいアイデアだったが、今になってよく完成したなぁと感心する。思い出に残るハプニングがたくさんあって、本当に楽しかった。クイズはリーダーを務めていたが、装飾に時間を割いていたので、完成がギリギリになってしまったが、仲間の協力もあり、完成した時はうれしかった。当日は、クイズの出題者としてお客さんの前に立ってしゃべった。こういうのも初めての体験でうれしかった。全体で 19 名という小さすぎるクラスだが、他のクラスに誇れるいい催し物ができたと思う。心から頑張って良かったと思った。（2 年 1 組 清水 康介）

朗報　OB 内川君、書道展に入選

Newsletter

特進OBセミナーに出演いただいたOBの皆さんと同じ代の特進卒業生である内川雄生くんが、板橋区文化祭の第 60 回区民書道展にて、最高賞の区長賞を受賞しました！

受賞した内川君（左）と細谷先生（右）▶



保善高等学校　特別進学クラス　　2022.10.31

Newsletter No.040

目に見えないところにある「信実」をみとるための学問

巻頭言

「おまえらの望みは叶ったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

　どっと群衆の間に、歓声が起った。

「万歳、王様万歳。」

中学校で（ほぼ）すべての人が学んだ太宰治「走れメロス」の一節です。さて、ちょっと考えてみてほしいことがあります。もしもあなたが「群衆」の一人だったならば、あなたは誰に対して「万歳」というでしょうか。

　すでに「走れメロス」を読み終えているあなたは、「メロス万歳！」というに違いない、と思うかもしれません。ですが、群衆はメロスの物語を知りません。群衆が目の当たりにしたのは、メロスとセリヌンティウスの友情を目の当たりにした王様が「おまえらの仲間の一人にしてほしい。」と口にした場面だけです。ですから、群衆はメロスに対して「万歳」という動機を持ち合わせていないのです。このように考えてみると、これは極めて危うい場面だといえます。「邪智暴虐の王」と評され、メロスに「呆れた王だ。生かして置けぬ。」とまで切り捨てられた王様そのひとが、無批判に「万歳」と礼讃されているのですから。結果だけを見て権力者を礼讃（あるいは批判）する劇場型政治、あるいは衆愚政治のようなものが、この感動的なクライマックスの背後には存在するといえるかもしれません。

　では、そのような危うい状況を回避することはできるのでしょうか。福澤諭吉は『学問のすゝめ』の一節でこのように述べています。

> 人民もし暴政を避けんと欲せば、すみやかに学問に志しみずから才徳を高くして、政府と相対し同位同等の地位に登らざるべからず。これすなわち余輩の勧むる学問の趣意なり。

　そう、大切なのは学問です。もし、あの群衆たちに学問があったのならば、「邪智暴虐の王」が無批判に「万歳」と礼讃されるような危うい場面が展開されることはなかったのではないでしょうか。

ここで話を整理しますが、群衆は自らの目の前で繰り広げられた対話だけをもとに、王様を「万歳」と礼讃しています。彼／女らは、その目の前に見えているものだけを根拠として王様に「万歳」という言葉を投げかけているのです。目の前に見えているものの外側の領域に心を配り、より広い視野から王様の言動を評価することができていたならば、無批判な「万歳」には至らなかったかもしれません。そういう意味で、王様の言葉には反しますが、「信実」とはむしろ「空虚な妄想」であるといえるかもしれません。何が「信実」になるのかは、判断するひとに見えているものだけで決まってしまうからです。

　では、「信実」と判断するに足るか否か、主体的に判断できるようにするためには何が必要なのか。福澤諭吉の言葉を引くまでもなく、それは学問です。では、どのような学問か。これは個人的な見解ですが、別にどの学問であってもいいと思います。大切なのは、何らかの学問に徹底的に向かい合う経験です。そのような経験があれば、きっとその他の学問が求められる場面に出くわしたとしても、その他の学問を新たに学ぶことができます。

　保善生のみなさん、大学に進む意味とはそのようなものです。大学を卒業してからも、人はよりよい生を希求しようとする限りにおいて、学びから身を遠ざけることはできません。そして、どのような学びが未来のあなたに求められているのかは誰にもわかりません。だからこそ、いま学びたいと思う学問の世界に進み、そこで「学び方」をめぐる知恵を学ぶことが大切なのだと思います。

（２年１組担任　三保谷　遼（国語科））

特集　特進 OB セミナー

Newsletter

特進クラス秋の恒例行事「特進 OB セミナー2022」が去る 10 月 26 日㈬に本校会議室にて実施されました。今回お招きした OB は次の四氏で、いずれも令和 2 年 3 月卒業（細谷・三保谷クラス）。現在大学生活の真っ只中というみなさんです。

【講演者】

鴨志田　翼　慶應義塾大学　環境情報学部 環境情報学科３年
山中　智仁　明治大学　商学部商学科　３年
佐藤　　亮　北里大学　薬学部薬学科　３年
金子　　薫　芝浦工業大学　工学部電気工学科　２年

鴨志田翼氏　講演要旨

▶高校受験で失敗し、保善高校に入ることになった。普段の授業は自分で予習していて。高校時代に大事にしていたことは「常に思考し続ける」ということ。そのおかげか、未来考動塾でのプレゼンが評価された。▶大学受験期は勉強にひたすら向き合った。センター試験での失敗もあったが、担任の三保谷先生と相談を重ね、最後まで自分と向き合えた。▶大学は既存の学問にとらわれない学部に所属しており、文理の区別もなく自分の研究したいことを学べる。▶現役生には、常に思考し続けることと、仲間と過ごす時間を大切にしてほしい。

山中智仁氏　講演要旨

▶三保谷先生から「あなたが特進クラスに何を残してくれますか」と言われたことが衝撃だった。特進クラスではチャレンジ精神を培った。▶いつも一緒に勉強するライバルを持つことが大事。▶高校は勉強だけをする場所ではない。日常生活でしたことを結構いまだに覚えている。▶大学受験は「運ゲー」だと思っていたが、勉強をすることにより運の要素を減らすことで、合格の可能性を高めていくものである。▶大学は専門性が高いことを学ぶため、やることを明確にして入学すべきだが、そうして入学した大学でも、当初の目標とは違うことを学べる。

金子薫氏　講演要旨

▶理系を選択したが、文理両方の勉強をしたほうが良い。数学と国語は関係性がないように見えるが、国語の評論文が数学の論理展開に役立てる。なるべくいろんなことを勉強していった方がよい。▶大学受験は遅くても２年次から考えた方が良い。実際に共通テストを解いて分析し始めるべき。▶大学の専門は電気回路。大学では、高校でわからなかったことを勉強し続けられる。

佐藤亮氏　講演要旨

▶もともと文系志望で公務員を望んでいたが２年次に理系を選択。▶薬学部は６年生まであり、勉強が大変。毎日５限まで授業。四年生に二度試験があり、合格すると五年生になれる。薬学部を卒業することで薬剤師の受験資格ができる。▶薬剤師をとることでなれる公務員があることを知り、当初の将来像にむしろ近づいたと言える。▶特進クラスでの生活は、先生との距離が近いと感じる。▶自分の好きなこと・楽しめることを大事にしてほしい。

恒例「質問コーナー」も実施

四氏によるプレゼンの後、休憩をはさんで後は在校生から募った質問に OB が答える「質問コーナー」に移りました。

自身が目指す大学に合格した OB なので、完璧な姿を想像していた生徒も多かったようですが、「結局苦手教科を克服できなかった」とか、「ストレスで髪の毛をむしっていた」など、先輩にも弱みがあったことなどを聞き、自分が今抱えている悩みを OB たちも抱えていると知ることができた生徒たちの中には「自分も頑張ろう」と意気込みを新たにした者も少なくないようでした。

OB セミナー延長戦

こちらも恒例、OB セミナーが終わった後の職員室です。２・３年生が OB たちと「個別相談会」を繰り広げていました。特進クラスは先生との距離の近さがメリットだ、という声を多く聞きますが、こうして積極的に先輩たちに質問する姿は大変頼もしいですね。さまざまな機会で「人とかかわる勇気」を持っていろいろな情報や考え方を身につけてほしいと思います。

みんなの感想

▸実際に経験してきた先輩の話は説得力があって面白かった。▸自分で大学に行く目的を考えて、何がしたいかを改めて考えたい。▸自分の小さな疑問を解決してくれるような回答がたくさんあって有意義だった。▸どの先輩も勉強の「ルーティン化」ができているのだと実感した。▸今自分が立っている位置がよくわかったように思う。▸今のままではダメだと思った。▸常に頭を動かす生活をしたい。▸自分は全てにおいて足りないと感じた。▸やらされる勉強ではなく、自分から始めることが大事だと感じた。▸数年後、自分も先輩側に立って後輩にアドバイスできるようになりたい。

今回のセミナーに都合で来られなかった中嶋快君（慶應大）からは動画メッセージをいただき、OB セミナー内で披露されました。下の QR コードから閲覧できます。

動画は学内限定配信とさせていただきます。